

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104166		
法人名	社会福祉法人 夢の会		
事業所名	グループホーム夢ごこち		
所在地	山口県下関市長府才川 1丁目41-76		
自己評価作成日	令和 3年 2月 7日	評価結果市町受理日	令和3年7月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は特別養護老人ホームの3階に位置しており、共有スペースは明るく、のんびりと思い思いに入居者同士の交流が持てるように机やソファの配置、環境に配慮している。毎朝、申し送り時に職員全員で作った理念を唱和し、入居者の個性に応じて支援している。日々の居室掃除、洗濯物の整理、お米をといだり、食事の盛り付け、配膳、下膳など入居者の持っている力に応じて声かけし、安全にできるように見守りしている。認知症の状態になっても自分らしく笑顔で生活できることを地域の方々や家族に理解してもらえるように手作りの「夢ごこち便り」を毎月発信している。季節のおやつ作りや誕生日会、お正月には着物を着る等、事業所内でできることをして楽しみのある生活が送れるように支援している。職員は法人全体研修や職場内研修に参加し、スキルアップを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時の「基本情報シート」を活用されて、今までの生活や暮らしの様子を把握され、「アセスメントシート」を作成しておられ、日々の関りの中での利用者の言葉や表情を「24時間生活変化シート」やセンター方式の「私の姿と気持ちシート」に記入されて、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めておられます。外出支援が制限されるなかでも、毎朝利用者が順番に職員と一緒に新聞を取りに1階に降りて行かれることで、外気に触れる機会を増やすように努められたり、職員が持参した四季折々の花(スイトビー、カラー、桜、ラベンダー、ミモザ、アマリリス、シンピジューム、アサガオ、バラ、チューリップ、菊など)を利用者が活かして楽しまれたり、家族からの差し入れの花籠を飾っておられる他、リビングの壁に、利用者職員が毎月一緒につくっておられる季節の作品(ちぎり絵、貼り絵、さげもんなど)を飾られて、利用者が季節を感じることができるよう、支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夢ごこちの名のもとに「ご入居者様の個性を大切に地域とつながる暮らしを目指します。」の事業所理念は職員全員で検討して作り、毎日朝礼で唱和し実践につなげている。新規職員にも理念研修を行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を、全職員で話し合っつくり事業所内に掲示している。職員会議や毎日の朝礼で唱和し、内部研修で学び話し合っ確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。コロナウィルス感染拡大防止の為、面会、外出を控えている。地域の方から花の差し入れがあった。	自治会に加入している。コロナ禍で地域に出かけていくことやボランティアの来訪がなく、地域の人との交流の場が少なくなっている。地域の人から野菜の差し入れやお雛様をいただく他、職員は玄関先であいさつを交わすなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染拡大防止の為、外部との交流を控えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義について職員全員に説明を行い、全員が自己評価を行っている。評価を通じて、日々の支援を振り返り、意見を交換しながら、質の向上に努めている。	管理者は、評価の意義についてガイドブックを参考にして説明し、全職員に自己評価のための書類を配布して、記入してもらったものをまとめている。まとめたものを職員間で再確認している。職員は、評価を日頃の業務の振り返りの機会と捉えている。前回の評価結果をうけて、急変時に備えての応急手当や初期対応の訓練を定期的の実施している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染拡大防止の為、運営推進会議を中止している。	会議は、年6回、併設の特別養護老人ホーム合同で開催予定だったが、コロナ禍のためすべて開催していない。利用者の状況や行事報告、ヒヤリハット事故報告、行事報告等の資料を作成し、市の担当課へFAXしている。メンバーからの意見を聞く機会は設けていない。	・運営推進会議の活用方法

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは入居者状況報告、行事予定、行事報告、ヒヤリハット報告、事故報告などファックス送信している。コロナウイルス感染拡大防止の為、マスクの支給があった。	市の担当者とは、電話やFAX、「施設内感染対策のための自主点検チェックリスト」や「新型コロナウイルスのワクチン接種」等の問い合わせにメールで返信しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で利用者の状況やケースの相談をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催している。身体拘束について、すべての職員が正しく理解して支援できるように研修を行っている。スピーチロックやドラックロックなど事例をふまえ、研修を行っている。新規職員には事業所マニュアルに基づいて研修を行っている。	「身体的拘束等の適正化のための指針」に基づいて、年4回「身体的拘束適正化検討委員会」を開催し、年3回研修を実施している他、内部研修でも学んで、拘束のないケアに取り組んでいる。外出したい利用者に気付いた時は、職員と一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、管理者は内部研修での事例検討を通じて指導し、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で高齢者虐待について学ぶ機会がある。一人ひとりが日々の支援を振り返り、適切な支援をめざしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度の理解に努め、研修等に参加し、活用できるように支援に繋がりたいと考えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書について十分な説明を行い、不安や疑問点があれば、納得して頂くまで説明を行い、理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談や苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。写真と手紙、“夢ごこち便り”を送付し意見や要望が出しやすいようにしている。電話やタブレットによるラインにて家族からの意見や要望を聞いている。	契約時に、苦情相談の受付体制や処理手続きについて利用者と家族に説明している。電話や面会時、月1回の事業所だよりと写真を同封した利用者の近況を知らせる手紙の送付時に意見や要望を聞いている。日常のケアに関しての要望には「連絡ノート」の記入し、職員間で共有し適切に対応している。運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送り時や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞き、判断できない場合は代表者等に問題を放置せず、解決するように努めている。職員の休憩場所確保の為、籐スクリーンの購入を依頼した。	管理者は、月1回の職員会議時や申し送り時、日頃の業務のなかで職員の意見や提案を聞いている。職員の休憩場所確保のための間仕切スクリーンの購入や利用者の個別ケアのための小食卓の購入、非常勤職員の勤務体制の変更など、出た意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	管理者を通じ、職員個々の勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備にあたっている。給与水準の整備には至っていない。有給休暇は取りやすくなっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修は介護職場のマナー、コンプライアンス、企業理念、行動指針、個人情報保護等あり、全職員が会社貸与のスマートフォンにて学んでいる。内部研修は年間計画を作成して月1回テーマを決め、行っている。新規職員には法人マニュアルに沿い、説明している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供しているが、この1年の参加はない。法人研修は、全職員への携帯への配信によって学ぶことになっており、理念、介護職場のマナー、コンプライアンス、行動指針、個人情報保護などのテーマで受講している。内部研修は、法人のグループホーム間で検討して、月1回実施の年間計画を作成し、接遇マナー、理念の共有と実践、応急処置方法(転倒、転落・心肺蘇生、異物除去、止血など)食中毒、感染症、熱中症、看取り、ノロウイルスとインフルエンザ、権利擁護と高齢者虐待、認知症、プライバシー保護・個人情報をテーマとして、実施している。欠席者には資料を手渡して共有している。新任研修は、マニュアルに基づいて管理者が説明した後、現場で先輩職員の指導をうけて働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染拡大防止の為、同業者との交流や勉強会等への参加はできていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に、ご家族に基本情報シートに本人の今と過去の状態を記入していただき、参考になっている。しっかり関わりを持ち、本人の思いに添ったその人らしい支援ができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族の要望、思いをしっかりと聞き、不安な点や要望を聞きながら、信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活動作、身体的・精神的な健康、社会関係、経済状況、住生活環境等について、本人と家族等の「その時」のニーズを的確に把握し、適切な支援ができるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士として、本人のできること、好きなことを見極め、本人の意思で生活できるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から電話があった時には本人とゆっくり話をしてもらっている。月1回、夢ごこち便りと写真と手紙を送り、生活の様子や体調等を伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染拡大防止のため面会中止しているが、電話やライン、年賀状で気持ちを伝え、関係が途切れないように支援している。	コロナウイルス感染拡大防止のため家族や親せき、知人等の来訪は中止している。家族とのラインや電話の取次ぎ、年賀状のやり取りを支援している。親せきの人の来訪で、利用者は正月の着物姿を玄関のガラス越しに見てもらおうなど、馴染みの人との関係が途切れないように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごし、レクリエーション等で入居者同士で交流を図る環境にしている。職員も一緒に関わり、孤立を感じ不安にならないように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所されたり、他施設に移られた後でも、お見舞いや電話にて、その後の様子を尋ねるなどして相談しやすい関係を築いていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から暮らしの様子、暮らしの情報を記入していただき、本人の希望、意向の把握に努めている。24時間生活変化シートに生活の様子、気持ち、思いを記録に残し、困難な場合、センター方式C-1-2を使用し、職員が記入、共有し、話し合い、検討している。	入居時の「基本情報シート」を活用して、今までの生活や暮らしの様子を把握し「アセスメントシート」を作成している。日々の関りの中で利用者が発した言葉や表情を「24時間生活変化シート」やセンター方式の「私の姿と気持ちシート」に記入して、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は、家族から情報を得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に基本情報シートの記入を依頼し情報収集している。また、電話やラインにて情報収集を行い、今までの生活により近く、本人らしい生活ができるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートに入居者の生活の様子を記入し健康チェック(バイタル、食事摂取量、排泄状況など)を行っている。朝夕の申し送り時に一人ひとりの一日の様子を伝え、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員が中心となり、入居者の状況についてカンファレンスを行い、家族と本人の意向を尋ね、介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しをしている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月別のサービス提供状況表と月毎にまとめた「施設介護経過」に基づいて毎月モニタリングし、6か月ごとに介護計画の見直しをしている。利用者の状況の変化や家族の意向に応じて見直しをし現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは24時間生活シート、健康チェック表、連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診支援など、その時々にも生まれるニーズ、本人の状況に応じて臨機応変、柔軟な支援、サービスをこころがけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルス感染拡大防止のため、外部との交流は控えている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。訪問診療時には申し送りノートに内容を記録し職員間で情報を共有している。急変時にはかかりつけ医に連絡し指示を受け対応している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間ごとに訪問診療の支援をしている。受診時は医師に利用者の状況を伝えている。受診結果は家族に電話やラインで伝え、職員には連絡ノートに記入して共有している。夜間や緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェックは毎日行ない、小さな変化を見逃さないようにしている。気づきは看護師に相談、報告し、協力医療機関への報告を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院関係者と情報交換、連携を取り、早期に退院できるように努めている。状態が変化した場合も家族、病院関係者と相談しながら方向性を決めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時「重度化した場合における指針」を家族に説明し事業所の方針を伝えている。重度化した場合は家族、医師と相談し方針を決めて対応している。	契約時に、「看取り(重度化した場合)に関する指針」に基づいて、事業所でできる対応について本人と家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医と話し合っ方針を決め、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやりはっと、事故報告書に記録を残した後、原因や対応策を記録し、回覧して共有している。職員会議で振り返りを行い、再確認し事故防止に取り組んでいる。急変時や事故発生に備えて、ノロウイルス、食中毒、インフルエンザ、熱中症、応急処置(2回)等について学んでいる。	事例が発生した場合には、その場の職員でヒヤリ・ハット報告書に状況、想定される事故、原因、改善すべき点を記入して回覧し、申し送り時に職員に伝え、月1回の職員会議で再検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。職員は、内部研修で応急処置方法(転倒、転落・心肺蘇生、異物除去、止血など)、食中毒、感染症、熱中症、ノロウイルスとインフルエンザなどについて学んでいる。事故発生時に備えて応急手当講習テキストを参考にして学んでいるが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼、夜間を想定して消火、避難、通報訓練を行っている。	年2回防災訓練を実施している。うち1回は、事業所独自で夜間想定火災通報、消火、避難、誘導訓練を利用者も参加して実施している。もう1回は拠点施設合同で夜間想定火災通報、消火、避難訓練を職員のみで実施している。地域の人の参加は得ていない。事業所は地域の一時避難場所として申し出ている。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示、命令にならないように丁寧な言葉使いを心がけている。入居者が聞き取りやすいように話しかけ、思いやりのある言葉使いを目指している。個人情報の取り扱いは周知徹底している。	法人研修や内部研修で、接遇、個人情報保護等について学び、職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の管理に留意し守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとり一人にあった声かけ、関わりを持ち、入居者が話しやすい環境作りを行っている。言葉で表現できない方の表情や動作も見逃さないようにし、自己決定の支援をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務を優先せず、職員本意にならないようにしている。その日の心身状態を見極め、無理せずに声かけしながら、希望に添った支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて、その人らしいおしゃれができるように一緒に衣類の整理整頓を行っている。必要に応じて訪問理容を利用し、心待ちにしておられる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セントラルキッチンで管理栄養士が考えた献立の料理が毎日配達されている。事業所内にて温め、汁物を調理し共に盛りつけを行い、出来たての料理を召し上がって頂いている。おやつ作りや誕生日のケーキ作り等食事が楽しむことになる支援をしている。家族がパンを持って来られるので、喜んで食されている。	副食は三食とも法人からの配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者の状況によってトロミ、ミキサー食など、食べやすい形状にして提供している。利用者は、職員と一緒に米研ぎ、ゆで卵の殻むき、レタスちぎり、食パンにバターをぬる、盛りつけ、台拭き、お盆拭き、配膳、下膳等できることをしている。おやつづくり(スイートポテト、たこ焼き風ホットケーキ、ゼリー、クリスマスケーキ、誕生日ケーキ)や保存食づくり(干し柿、甘酒)、季節の行事食(ひな祭りの祭り寿司、端午の節句のお祝いゼリー、土用の丑の日のウナギ丼やかば焼き、そうめん、重陽の節句の栗ご飯、クリスマスプレート、おせち、七草がゆなど)、家族から差し入れのパンやお菓子等、食事が楽しみなものになるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残している。水分摂取量は声かけしながら、こまめな水分補給を行い、脱水を防いでいる。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、歯ブラシ、コップが不衛生にならないように定期的に消毒している。同一法人の歯科医師より口腔衛生管理に関わる指導を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表と24時間生活変化シートを活用してパターンを把握し、声かけ、誘導している。トイレの場所がわからず、そわそわされている時もトイレで排泄できるように声かけ、誘導している。居室にトイレがあり、プライバシーの確保ができています。	「24時間生活変化シート」と「健康チェック表」を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけや誘導をし、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分摂取を心がけている。手作りヨーグルトやヤクルトを提供している。排便チェック表をもとに排泄パターンを把握している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の状態、希望に応じて入浴、清拭、足浴を行い清潔を保持している。季節のゆずや入浴剤を使用し気分転換を図っている。入浴拒否のある入居者には職員の交代や日程や時間を変えたりして工夫している。	入浴は毎日、14時から16時までとしている。利用者の体調によって清拭、シャワー浴、足浴、部分浴で対応している。ゆず湯にして温まって季節を感じたり、入浴剤で香りを楽しんでいる。職員と1対1でゆったりと子供時分や生い立ちのことなど話しながら、楽しんで入浴している。入浴したくない人には、無理強いをせず、言葉かけの工夫や時間の変更、職員を交替するなど、一人ひとりに応じた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活習慣を受け入れ継続できるように支援している。安眠できるように室内の空調、照明に配慮し、気持ちよく眠れるように寝具類を清潔にしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書は個別にファイルしている。薬の処方、用量が変更になった場合は申し送りノートに記録を残し情報を共有している。服薬後の様子観察を行い主治医に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、敬老会、クリスマス会、おやつ作り、生け花、季節の壁画作り、塗り絵、貼り絵、トランプ、カルタ、おはじき、歌、テレビ体操、タオル体操、風船バレー、食事の準備や片づけ、洗濯物たたみ、居室掃除、歩行訓練など、一人ひとりに合わせた支援をしている。	新聞の取り込み、花活け、花瓶の水替え、洗濯物たたみ、カーテン開閉、プリンターの水やり、要茶出し、編み物、雑巾縫い、テレビやラジオDVDの視聴、本や雑誌を読む、写真集を見る、折り紙、ぬり絵、習字、歌を歌う、カルタ、トランプ、百人一首、おはじき、紙芝居、紙飛行機、段ボールのコインゲーム、風船バレー、カレンダーづくり、ボール遊び、リハビリ体操、口腔体操、テレビ体操脳トレ(漢字、計算、なぞなぞ、しりとり、四文字熟語)、節分の豆まき、敬老会のじゃんけん大会や手品、スタッフの仮装、誕生日会、正月に着物を着るなど、活躍できる場面を多くつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウィルス感染拡大防止のため、外出支援は行っていない。	外出支援が制限されるなかでも、外気に触れる機会を増やすために、毎朝利用者が順番に新聞を取りに1階に降りて行くことをしている。家族からの花かごを飾ったり、職員持参の季節の花(スイトピー、カラー、桜、ラベンダー、ミモザ、アマリリス、シンピジューム、アサガオ、バラ、チューリップ、菊など)を利用者に活けてもらう他、ティータイムに新聞を読み季節や世間の様子を伝え、皆で話をして季節を感じる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は持っておられないが、身の回りの必要な物は家族の了解を得て、立替金から購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やラインは状況に応じて対応している。年賀状を一緒に作成し、写真を入れて郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は温度、湿度を調整し、換気に十分気をつけている。観葉植物や花を生け、季節の飾りや壁画をかざり、家庭的な雰囲気の中で明るく楽しめるようにしている。調理中の匂い、音などで生活感を感じることができている。	拠点施設の3階に位置する事業所は、窓から周辺の町の様子が一望できる。リビングに利用者が活けた職員持参の四季折々の花や家族からの花籠を置いて季節を感じる工夫をしている。台所からの炊飯の匂いがして生活を感じる。壁には、利用者と職員が毎月一緒につくった季節の作品(ちぎり絵、貼り絵、さげもんなど)を飾っている。大小4つのテーブルとソファをゆったりと配置し、利用者が思い思いにくつろいで過ごす場所としている。温度、湿度、換気に配慮し居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの食事テーブルの位置を変えたり、ソファの位置を調整して、気分転換ができるように工夫している。座布団やクッション、ひざかけを使用しゆったり思い思いに過ごして頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族に本人が使い慣れたものを持ってきていただくよう、伝えている。居室内に押入れやクローゼットがない為、整理整頓が困難である。家族の写真を飾ったり、加湿器を置く等、居心地良く過ごせるようにしている。	利用者は、ベッドや寝具、タンス、クッション、テレビ、加湿器、時計、鏡、雑誌、本、衣装ケース、衣装かけ、等使い慣れたものや好みのものを持ち込み、写真やカレンダーなどを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、廊下や浴室、トイレに手すりを設けている。居室は自立した生活が送れるように整理整頓や動線を考えた家具の配置をしている。共同トイレはわかりやすいように表示をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム夢ごこち

作成日: 令和 3 年 7 月 17 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の継続	全職員が応急手当や初期対応の訓練に参加し、実践力を身につけ、冷静に判断、行動できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修にて定期的に応急手当や初期対応の訓練を実施する。 ・応急手当講習テキストを活用する。 	12ヶ月
2	36	地域との協力体制の構築	災害時における地域との協力体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策マニュアルの確認 ・コロナ禍の中で感染対策をしながら運営推進会議等を開催し、協力が得られるよう依頼していく 	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。